

ひろしまの 土地改良

夏

2015年 第242号



ふるさとの田んぼと水子ども絵画展2014 入選
「大切な八木用水」 井手ノ瀬 舜

平成27年度(平成28年度採用)広島県土地改良事業団体連合会職員採用試験のお知らせ

平成28年4月1日採用の職員採用試験を下記のとおり行います。

【試験区分】技術職(農業土木)

【採用人数】3名程度

【職務内容】農業農村整備事業等に関する調査、計画、測量、設計、施工管理、換地等の業務

【受験資格】昭和61年4月2日から平成10年4月1日までに生まれた者。(学歴不問)

【受付期間】平成27年7月21日(火)～平成27年9月25日(金)

【試験日】平成27年10月10日(土)

【受験案内】本会のホームページをご覧ください。
(<http://www.hdn.or.jp/>)

【お問合せ先】

広島県土地改良事業団体連合会 総務部総務企画課

〒730-0017 広島市中区鉄砲町4番1号

☎(082) 502-7470

～人も地域資源もオールラウンドに活用～ 徳市地区農地・水・環境保全会

世羅郡世羅町の徳市地区は、農業用ため池1カ所と源流からの自然水を利用した水田地帯が広がる山間地です。地域住民を中心とした組織「ふるさと会」が農地を守ってきましたが、ほ場整備事業完了から20年以上が経過し、施設の老朽化や高齢化による後継者不足の問題が深刻化したことにより、本事業スタートから2年後（平成21年）に「いよいよ自分たちで何とかしなければ、このままでは地域を守れない。」と農地・水・環境保全の取り組みへの機運が高まりました。「（農）とくいち」と個人農家で構成した営農組織、女性会、青年部、親子会など地域団体を中心に再構成し「徳市地区農地・水・環境保全会」を立ち上げ、農地の保全活動を進めています。

毎月1回、役員や各工区の班長が地区単位で、農道やため池周辺の草刈りや水路の泥上げなどの計画を持ち寄り、活動の報告や、破損箇所の補修や改修などの問題点を検討しています。この会議は工区間の状況を把握し、均一に施設を管理するうえで大切な「核」になっています。



生態系保全活動
ブッポウソウの観察保護



月1回の打ち合わせ



水路の泥上げ



農道周りの草刈り

特に鳥獣害対策は重大な課題であり、防護柵の修繕順位や日程調整、防護方法などのアイデアを出し合い問題解決に向けた取り組みを行なっています。子どもたちも参加する花植えや缶拾い、菜の花の植え付けなど環境美化活動は、取り組みの成果が目に見えてわかり、環境整備の意識向上につながっています。



鳥獣柵の補修



菜の花の植え付け



親子で花の植栽

子どもから年輩の方々まで楽しみながら取り組んでいる、地域ならではの活動に生態系保全活動の「ブッポウソウの観察会」があります。ブッポウソウは絶滅危惧種に指定されている貴重な鳥で、繁殖のために毎年5月頃飛来し、9月頃には東南アジアに帰っていきます。徳市地区でもその姿が見られ、巣箱の修理や見回り、保護に務め地域をあげて見守っています。毎年飛来の時期には、ブッポウソウの話題が挨拶代わりになるほど、話の種が付きません。



破損したブッポウソウの巣箱



ブッポウソウ巣箱の修理



ブッポウソウの観察会

当初は交付金をどのように使ったらいいのか、やりたい活動は多いけれど制約があり、運用に迷うこともありましたが、今では活動が定着し、継続していくことで役割分担もおのずと決まり、効率的に取り組んでいます。何より取り組んだだけの成果が地域に却ってくるのが一番の収穫であり喜びです。1人1人の地域に対する切迫感から取り組みに臨んできた徳市地区は、それぞれがリーダー的な自覚を持ち、まとまりのある地域が出来上がっています。今後は「まとまる力」を維持しつつ、後継者育成に向け、若者が定住できる徳市を目指していきます。



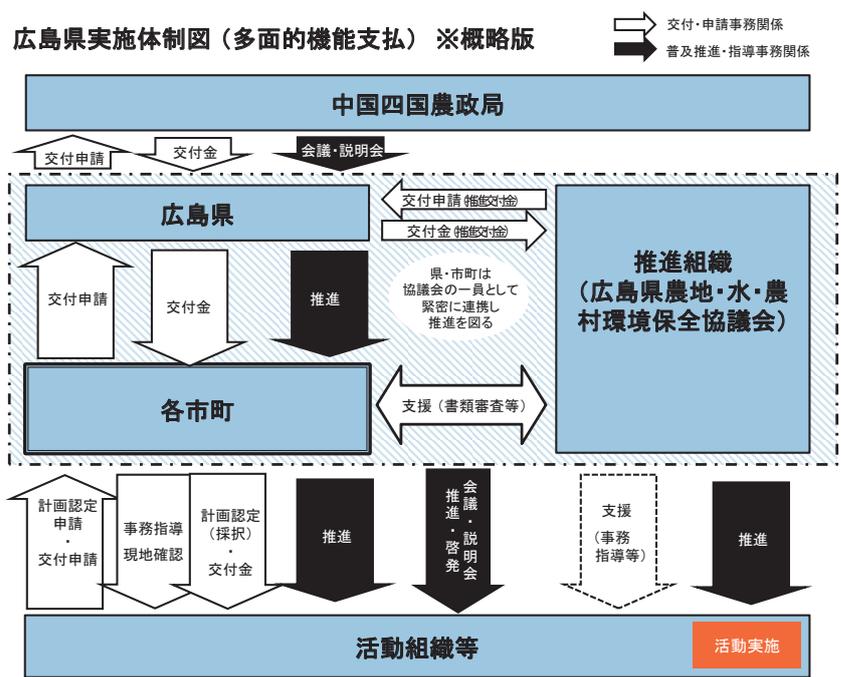
水路の補修工事

徳市地区農地・水・環境保全会の概要

- 設立年月日：平成21年3月31日
- 所在地：世羅郡世羅町徳市 三次市吉舎町徳市
- 農地面積：田34.48ha
- 活動内容：草刈り、泥上げ、水路補修、花の植栽、ブッポウソウの観察会 他
- 農業用施設：水路、ため池、農道

平成27年度より日本型直接支払制度が法制化されたことにより、多面的機能支払交付金の推進・実施体制が変わりました。法制化後において広島県では、多面的機能支払の効果的な推進を図るための推進組織として、広島県農地・水・農村環境保全協議会が位置づけられました。

広島県土地改良事業団体連合会では活動組織の事務支援をしています。
支援内容・委託費用については下記の担当部署へ、お問い合わせください。
地域支援課 ☎082-502-7476



◆農業農村整備の集い ―農を守り、地方を創る予算の確保に向けて―

平成27年6月29日、全国土地改良事業団体連合会は、平成28年度農業農村整備事業関係当初予算の増額及び、平成27年度の追加予算の確保に向けて「農業農村整備の集い」を開催しました。全国から約800名の土地改良の代表が参集する中、全国土地改良事業団体連合会の二階俊博会長が「農村を守るため、地域のニーズを生かせる予算規模になることを心から願っている。」と挨拶し、来賓の林芳正農林水産大臣からは「関係者が一丸となって最大限の予算確保を実現したい。」と祝辞を述べられました。集いの後、全土連・都道府県土連により、農林水産省等に対し要請活動を行いました。

◆中国四国土地改良事業団体連合会協議会事業推進要望活動

平成27年6月29・30日、中国四国土地改良事業団体連合会協議会の各県の代表が、中国四国地域の農業農村の活性化のために、自由民主党、農林水産省等に対し平成28年度農業農村整備事業関係の予算編成にあたり7つの要望・要請活動を行いました。

【要望事項】

- 1 中国四国各地域の農業農村整備に必要な財源の確保について
- 2 多面的機能支払交付金の予算確保について
- 3 国土強靱化の実現に向け、農村地域防災減災事業予算の確保等について
- 4 農業水利施設保全合理化事業の継続について
- 5 水土総合強化推進事業の継続について
- 6 農業基盤整備促進事業の制度拡充について
- 7 土地改良施設の施設台帳電子化やGIS化を支援する制度創設について



谷垣幹事長に要望活動

加工・業務用キャベツは集落法人に適している

1 なぜ集落法人が加工・業務用キャベツ生産に適しているか？

利 点	内 容
容易な規模拡大	まとまった農地がすでに集積できており、大規模生産が容易
効率的な機械化体系	水稻育苗ハウス利用や既存機械利用、定植～収穫までの機械化可能
豊富な労働力	構成員が分担することで、まとまった面積の管理作業が可能

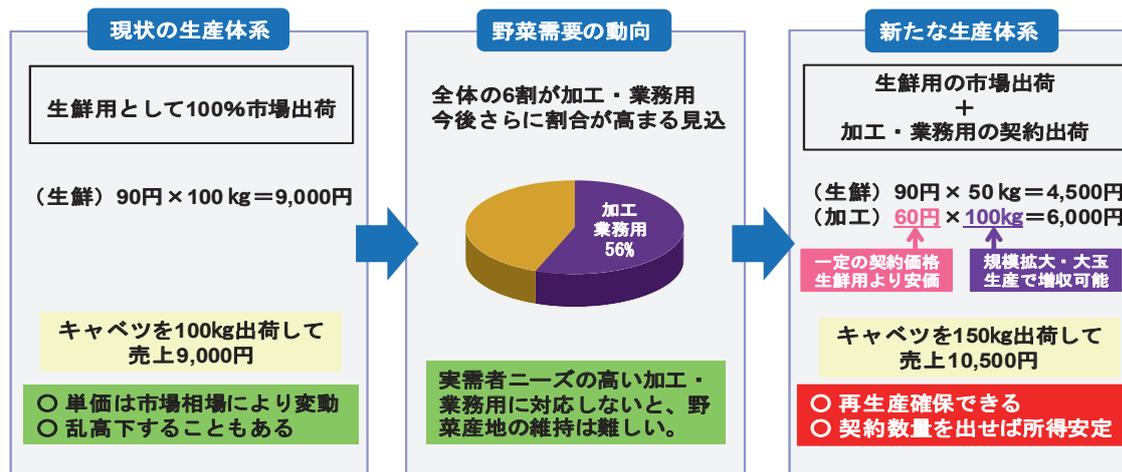
現在、加工・業務用キャベツの生産は、昨年12月に株式会社サラダクラブ三原工場が本格稼働したことから、JA全農ひろしまが契約出荷体制を構築し、集落法人をはじめ、大規模生産者や農業参入した企業なども取り組んでいます。

2 加工・業務用キャベツを導入した場合の所得は？

生鮮野菜を出荷する生産者にとっては、安価な加工・業務用はすその対策というイメージがありますが、野菜需要の56%がすでに加工・業務用であり、今後も増加する傾向です。末端消費者の需要を見据えた取組みが必要です。

加工・業務用野菜を導入した所得の確保（イメージ）

資料：農林水産省



市場価格の変動にかかわらず、安定した所得を確保できる販路拡大の好機と捉えて、既存の生鮮用の市場出荷の生産に加え、さらに単収増加や面積拡大に取り組むことが必要です。

3 課題と対応策

実需者への安定供給というニーズに応えるためには、生鮮用とは異なる特性を求められていることを認識し、これまでの産地間競争から産地間連携へ移行し、リレー出荷による周年供給体制を図ることが必要です。

- ① 安定的な生産、供給に対応できるように、土壌改良や病害虫防除資材の導入などの基礎技術に加え、加工・業務用に適した耐病性・多収性品種の選定が必要です。
- ② また、加工・業務用は、生鮮用よりも安価な取引価格のため、出荷規格の簡素化による選別・調整時間の短縮やリースコンテナの導入などによる流通資材費の削減など、省力化、低コスト化への取組みが不可欠です。
- ③ なお、確実な所得確保には、単位当たりの収量を高める栽培方法を実践することがカギとなります。

県では、アクションプログラム「キャベツ16億円産地計画」で、集中した支援を行っています。

支援の具体的な内容を知りたい方は、農業経営発展課にご相談ください。

問い合わせ先

広島県農業経営発展課：☎082-513-3591

青年農業家インタビュー Young man farmer Interview

今回から広島県内で青年農業家として生産・販売に取り組まれている農家を対象にリレーインタビューを掲載します。初回は、安芸高田市高宮町原田で水稻を中心に白ネギ、ソバなどの作物を中心に展開されている「(株)ハラダファーム本多」代表取締役の本多正樹さんにお伺いしました。

青年農業家たちの昨日・今日・明日 一生農業家の決意は「生産は喜び」

(株)ハラダファーム本多 代表取締役 本多正樹



ハラダファームを支える 本多さんご兄弟
左より弘樹さん（次男）、正樹さん（長男）、良樹さん（三男）

概要紹介

会社名	(株)ハラダファーム本多
構成員	5名
所在地	安芸高田市高宮町原田
作物 (ha)	水稻 (42ha)、白ネギ (1.7ha)、ソバ (5ha)
施策の取組	多面的機能支払交付金

——(株)ハラダファーム本多の概要をお聞かせください。

平成22年に設立し、自分を含め両親、第二子の5人家族で作業に従事しています。現在約42haの農地に特別栽培米コシヒカリと酒米の田植えを終え、これから白ネギの定植や田の管理、7月末にはソバの播種と続き、効率的に農地の活用を進めていきたいと考えています。

——就農へのきっかけをお聞かせください。

農業を仕事として考えるようになったきっかけは、農業に転職した父親の仕事ぶりを目にし「もしかしたら農業は仕事につながるのでは」と思いはじめたことがきっかけになりました。

一通りのことは父親から学び勉強を始めて3年が経過しましたが、経験はもとより技術の習得も、自分の思うようなレベルに上がらず、別に農業じゃなくても、と1度はあきらめかけた時期がありました。仲間に励まされたり「お父さんの作ったお米はおいしいね。」とうれしそうに食べる子どもの姿に「生産」の喜びや「食」が誰かの役に立っていると感じた時でした。

食を通して、人も元気になり自分も活力をもらえる仕事はなかなかあるものではない。自然と気持ちは「農業じゃないとだめだ。」という意志に傾いていました。



代表取締役 本多正樹さん

——農業への展望と地域との関わりについてお聞かせください。

水稻のほか白ネギは昨年の倍の面積1.7ha、ソバ5haを作付けしています。地域から農地を借り受け、地域のみなさんや周辺農家の指導を受けながら、さらに集積を図っていきたく考えています。農業を仕事として続けていくには、地域の意向を取り入れながら農地を集積し、広域化をめざすことが必要と考えます。

品目が増えると作業時期が重なる場合もありますが、畑作でキャベツ栽培のような取り組みも視野に入れ、収穫時期をずらすなど計画的な営農に向け、収益性をさらに高めたいと考えています。白ネギなど、可能な品種に絞った作付けの検討等、将来への展望は尽きることがありません。また、基盤である水稻以外の品目を1つに絞って1千万円の売り上げを目指すなどの取り組みも地域活性化の1つになれば、と構想を膨らませています。



収益性を高める白ネギ



倉庫は地域の方の力作が一面に描かれています

——農業でつながる仲間についてお聞かせください。

周辺地域には、以前より同じ趣味を通じて親交のある仲間や、若い農業者というきっかけから、横のパイプが出来上がっています。地域活性になるイベントを起こしたいと持ちかければ、すぐに企画の発案が出てくるほどイベーターが多く、年齢を問わず皆さんが活動的です。情報交換やアイデアを広げるには最適な環境ですし、農業に於いても作物の生育状況や病気に対する話など、情報の共有化も図れます。農業は年間を通して休む間がなく、特に農繁期にはしんどいと思うこともありますが、仲間とのコミュニケーションが働く活力にもなっています。

——これからの取り組みについてお聞かせください。

現在お米の消費量が減りつつある中、配食弁当を通じて、県内各地でお米を食べてもらえる機会を得たことで、多くの方に知っていただけます。と同時に、どうしたらお米をおいしくたくさん食べてもらえるか「食」に対する発想を広げていきたいと考えています。たとえばお米だけでなく、お米と何かプラスαで商品の組み合わせを企業と協力し、提案していけたら。と考えています。

.....

※(株)ハラダファーム本多の近況はフェイスブックからご覧になれます。

<https://www.facebook.com/haradafarmhonda>

——インタビューを終えて

農地集積や収益性の高い作目導入など経営拡大に向けた取組や、世代を超えた地域でのイベントの企画など、「農業」と「地域」の双方向から活性化されている取組が印象的で、若い農業者としての力強い活動力を感じました。

お忙しいところ、快く取材に応じて頂き、ありがとうございました。

今後も、若い農業者の方の取組を取材し、農業農村の魅力や地域の活力向上に寄与できれば幸いです。

こちら 21 創造運動事務局

≡ 二 掲示版

平成27年度水土里レポーターは、昨年に引き続き水土里ネット福山の佐々田 愛さんです。本年度も子どもたちのさまざまな農業体験の話題を投稿してくれています。子どもたちと一緒に、水土里ネット福山組合員の皆さんや、地元の方々の生き活きとした活躍ぶりが伺えます。

水土里レポーター報告



米の品種はヒノヒカリだよ
(5/15 粳蒔き体験より)



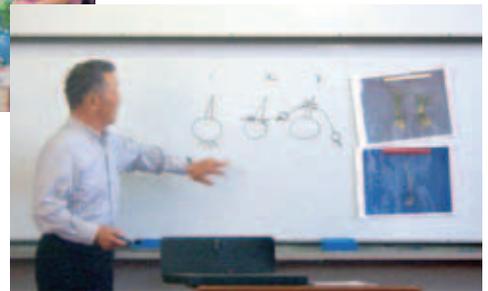
土と水、人間と生物の相乗効果で
稲ができる！
(6/4 学校給食の田植え体験より)



水路やため池には入りません！
しっかり約束してくれました。
(6/8
サツマイモの苗植え体験より)



苗をたくさん準備してくださいました！
(6/8 サツマイモの苗植え体験より)



「くわい」の根はどこから生えてくるか？
絵で解説
(5/21 くわいの出前授業より)

ふるさとの田んぼと水 子ども絵画展2015 作品募集!

応募資格：小学生以下。クラスや学校単位での共同作品も可。

テーマ：「新発見！ぼくのわたしのふるさと」

応募メ切：平成27年9月4日（金）

応募先・お問い合わせ先

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-10

日本経済広告社ビル6F「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展事務局

TEL：03-3292-5541 Fax：03-3292-5089

E-MAIL：midori@reception-desk.jp

※応募チラシの写真は「第13回ひろしまの農村フォトコンテスト」特別賞
「豊作を祈って」（西村義雄さんの作品）が採用されました。



住みやすく豊かな村づくり
みどり
水土里ネットひろしま

季刊 ひろしまの土地改良 第242号

- 平成27年7月15日
- 編集：ひろしま農業農村整備広報委員会
- 発行：広島県土地改良事業団体連合会
〒730-0017 広島市中区鉄砲町4-1 広島県土地改良会館
- TEL (082) 502-7470 ■ FAX (082) 502-7480
- <http://www.hdn.or.jp>
- 印刷：佐々木印刷株式会社